

4 こどもの事故

●こどもの事故について

現在の日本に於いて1歳以上の小児の死因の第1位は不慮の事故です。しかも、他の先進国と比較してもわが国の乳幼児の事故による死亡率は高く、何らかの対策が必要です。

事故死の原因は、交通事故が53.4%、溺死が11.9%、窒息が10.0%、他に誤飲、誤嚥^{ごえん}、中毒、熱傷、転落などさまざまですが、小児の死因は年齢によって大きく異なります。

年少で多い事故の原因は溺水(特に浴槽)と転落です。我が国では年間300~400人の小児が溺水で死亡しています。溺死事故全体の40%強が家庭の浴槽で起こっており、0~1歳代では90%以上が浴槽での溺水です。年長になると圧倒的に交通事故が多くなります。

『後悔、先に立たず』の諺どおり、起こってからでは遅いのです。こどもは、自分から、身を守る方法を見つけることが出来ません。親が代わりに、見つけるのは当然であり、義務と考えましょう。下記のサイトを参考に家庭内にこどもの事故を防ぐ工夫を取り入れましょう。

ただし、起こってしまった事故を親の責任として片付けてしまうことは最もよくありません。こどもの事故を欧米並みに減らすためには、こどもの安全を守る社会全体のシステム作りが不可欠です。

-
- 子どもに安全をプレゼント「事故防止支援サイト」
<http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/index.html>
 - 子供の安全ネットワーク・ジャパン
<http://safekids.ne.jp/>